



いろは呑龍新聞

2019年(令和元年)12月号
第48号

いろは呑龍トンネルに貯めた水を桂川へ放流するポンプ場を造っています。

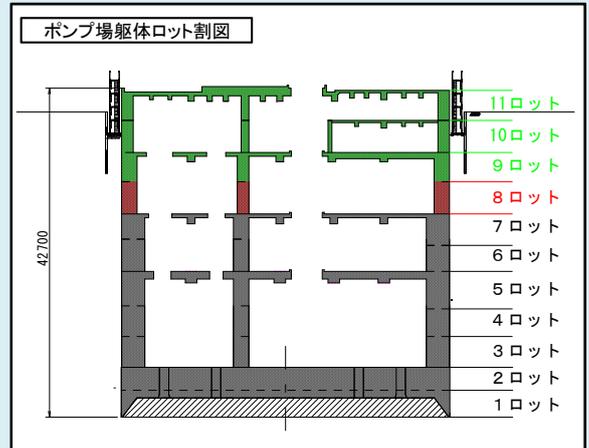
8ロット目コンクリート打設と進捗

12月5日、6日にポンプ場躯体の8ロット目のコンクリート打設を行いました。

8ロットの壁、梁は1日で1,730m³を打設し、累計のコンクリート打設量は全体で約32,700m³の内、約24,000m³を超えました(約74%)。11ロットに分割して施工するコンクリート打設も既に2/3が終了して、後半戦に入ってきています。

また、ポンプ場躯体の沈下量は、全37.6mの内、約23mまで進んでいます(約61%)。

令和2年度末に予定している暫定供用の開始に向けて、引き続き安全かつ確実に工事を進めていきます。



コンクリート打設状況



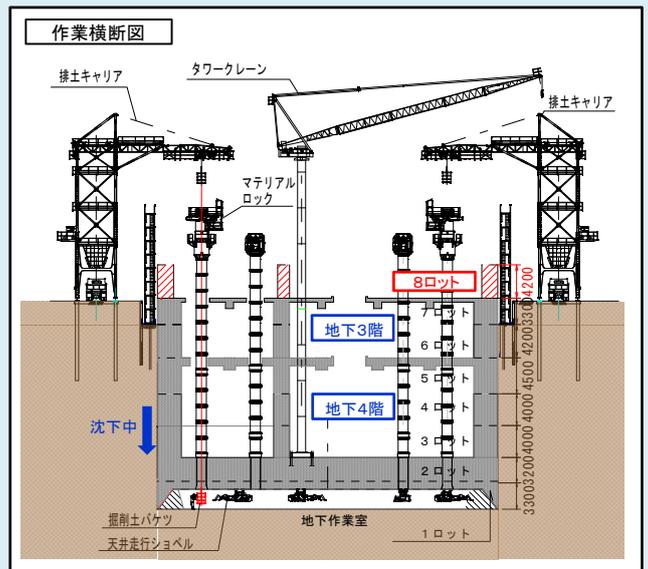
コンクリート打設状況



地下掘削状況



【おまけ】現場に架かった虹(11/11)



ニューマチック工法の設備紹介

救急・安全設備:ホスピタルロック

ホスピタルロックは、作業員が潜函病を発症した場合に使用する緊急用の設備であり、ニューマチックケーソンの現場への配置が義務づけられています。

見た目は等身大のカプセルのような形状をしており、中は気圧が調整できるようになっています。

地下作業により、高い気圧に体が慣れた作業員は、通常はマンロックの中で体を大気圧に慣らしてから外に出ますが、適応できずに潜函病を発症した場合、ホスピタルロックの中で再度高い気圧から大気圧へ、徐々に体を慣らすことで、潜函病の症状を抑制することができます。



ホスピタルロック外観



人命を守るための重要な設備なんだ。



内部の状況